

Summer School in Wales 2004

英語・英語圏文化専攻 教員

Patricia Yasuda



This summer we went to Llandrillo College for the third time. The summer school was smaller than usual but the classes were fun and the teachers were very kind. We had a lot of rain this year so some of the activities had to be changed. The weather in Britain is very unreliable!

Here are some comments from the students:

Sumie Watanabe: Beauty Class

We stayed in Wales for one month and we went to the local college. The college was huge and there were a lot of technical facilities on the same site. For example, cooking, art, business, tour conducting and beauty. Every day after language class, we had fun activities. One day we had a beauty session. First of all, the teacher taught us how to massage hands and give a manicure. Then we massaged and painted the nails of our partners. I felt like being a nail artist and I really enjoyed learning how to do it in English.

Mariko Motai: Celtic Culture

I enjoyed this summer's English programme in Wales. I had been looking forward to seeing things connected with Celtic culture there and, as expected, I saw a lot of interesting things. For example, old Celtic churches, Celtic crosses on the gravestones and many Celtic accessories in the gift shops. When I was a high school student, I went to England but did not see any evidence of Celtic culture around so this was the best point about going to Wales. Everywhere in Wales, we saw many signs written in the Welsh language. This was an unforgettable experience for me.

Mina Shijo: Homestay

My host family in Wales was a really good couple named Keith and Myra. They were so kind and, on weekends, took me to various places: for example, the church, their friend's house and good restaurants for lunch. This way they gave me lots of chances to talk with other people. That was a nice English lesson for me. My host mother cooked very well so we invited my friends for dinner. As a result, I was always happy and relaxed. Thanks to my host family, my own family and my teachers I think this study abroad programme was a good opportunity for me!



英米文学の故郷

英語・英語圏文化専攻 教員

伊藤 知子

第14回 ニューヨーク その2



O.ヘンリー

O.ヘンリー(O. Henry, 1862-1910)は、アメリカの代表的な短編小説家です。本名はウィリアム・シドニー・ポーター(William Sydney Porter)といい、ノース・カロライナ(North Carolina)州に生まれました。テキサス(Texas)州の銀行の出納係だった時に銀行自体のずさんな業務のせいで公金横領の疑いで起訴され、3年間服役しました。刑務所に入っている時にO.ヘンリーというペンネームで小説を書き始めました。出所後1902年にニューヨーク(New York)へ行き、亡くなるまでの8年間を過ごしました。多くの作品を書きましたが、好んでニューヨークを舞台にしました。



貧しい若夫婦が自分の大切なものを売り払って相手のためにクリスマスの贈り物を買うという「賢者の贈り物」(“The Gift of the Magi,” 1906)やグリニッチ・ヴィレッジ(Greenwich Village)のアパートを舞台として、老画家が自分の命を犠牲にして描いた最後の葉に力づけられた女性が肺炎から回復するという「最後の葉」(“The Last Leaf,” 1907)は日本でも親しまれています。

O.ヘンリーの足跡を辿ってマンハッタン(Manhattan)南東部に位置するグラマシー(Gramercy)を歩いたのは2004年3月でした。アーヴィング・プレイス(Irvin Place)には彼が1903年から1907年まで住んでいたアパートが残っています。近くには彼が通った酒場ピーツ・タヴァーン(Pete's Tavern)があり、「賢者の贈り物」を書いたというテーブルの横の壁には彼に関する新聞記事や自筆の手紙が掲げられていました。O.ヘンリーは47才の時に肝硬変で淋しく世を去りました。葬儀は、五番街と東29丁目の角にある通称「角を曲がった小さな教会」(The Little Church Around the Corner)にて行われました。彼の作品にはユーモアとペーソスがあり、ニューヨークの庶民を題材にして、人情や人生の浮き沈みを巧みに描いていますが、彼自身の人生を重ね合わせてみると、身につまされる思いがします。



ピーツ・タヴァーン

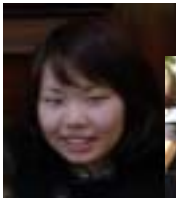
留学生座談会2004

英語・英語圏文化専攻 教員

北川 宣子 前田 隆子

浅野未渚さん

笹本恵里子さん



佐藤智恵美さん



鈴木ゆりさん

派遣奨学生として1年間の留学を終え、この夏にイギリスから帰国した4人の2年生を囲み、恒例の座談会を開きました。留学中に学んだことや苦労などをいろいろと話していただきました。

Travel & Tourismの授業でイギリス人学生と勉強した際、ティーンエイジャーたちがとても親切にしてくれて、うれしかったです。

鈴木ゆり(以下Y):私もちェスター・カレッジのEFLで学びました。授業以外に、毎週1回、「日本文化教室」のお手伝いをしたのですが、受講生に浴衣を着せたり、チラシ寿司や手巻き寿司を作ったりして、とても楽しかったです。また、12月にイギリスの伝統的なクリスマスを体験したことが印象に残っています。

教員:留学中苦労したのはどのようなことですか?

M:留学当初は寮生活だったのですが、寒い季節なのにシャワーが壊れて水しか出なかったり、暖房が壊れたりして、そういうときに大学に申し出てもなかなか修理がされずに、苦労しました。その後ホームステイに切り替えてからは、大変良い家庭だったので、すばらしい思い出がたくさん出来ました。

E:やはり私も外国人だからということで大不条理を感じたこともあります。そのとき、英語で話さなくてはいけなくて、大変なストレスを感じていました。

教員:皆さん、お帰りなさい。まず、留学先や留学中の思い出について簡単にお話ください。

浅野未渚(以下M):私はちェスター・カレッジのEFL(外国人向けの英語コース)で学びました。思っていたよりも大きなカレッジで、ヨーロッパ人も多く出会え、良い思い出が出来ました。

笹本恵里子(以下E):私はリバプール・ホープ大学のThe English Language Studies Programmeに入りました。印象に残っている授業は、pronunciationのクラスでMy Fair Ladyのテープを聞いたあと、実際に自分達でそのワンシーンを演じてみたことです。少し照れくささもありましたが、楽しみながら自然なイントネーションを身につける練習になりました。

佐藤智恵美(以下C):私はちェスター・カレッジのEFLで学びました。

がついたように思います。

C: ホームステイ先に同い年の女性がいたのですが、最初はなかなか打ち解けられませんでした。でも、一緒に犬の散歩に行ったり、テレビを見たりするうちに、とても仲良くなれたので、イギリス人は親しくなるのに時間がかかるなぁと思いました。

Y: 何でも自分でやらなくてはいけないという状況に慣れるのが大変でした。でも1年経って、かなり自立できたように思います。

教員: 皆さんそれぞれ苦労したようですが、その分、成長されたようですね。では、最後に留学希望の在學生にメッセージをお願いします。

M: 留学したら英語を学ぶだけでなく、その地域の人々の中にどんどん入って行って、イギリスでしか見られないのを見るといいですよ。

E: 照れずに自分から積極的にあいさつすることが大切です。

C: 外国人の友人を持つことによって視野が広がります。積極的に友人作りをしましょう。

Y: 悩みがあったら信頼できる人にすぐに相談するといいです。

教員: 皆さん、ありがとうございました。



先生が学生だった頃

このコーナーでは、カリタス女子短大の先生方がどのような学生時代を送ったのか、学生によるインタビュー形式でお届けします。第14回目のゲストは、英語・英語圏文化専攻の Patricia Yasuda 先生です。インタビュアーは2年生の坂元彩香さんです。



Patricia Yasuda 先生

Q: What was your major in college?

A: I took Education.

Q: Why did you become a teacher?

A: When I was at school, I had various part-time jobs. I worked in a hairdressing salon, in a sweet shop and then in an office but, whichever job I tried, I felt like a mis-fit. The only situation in which I felt comfortable was in a scholastic setting, working with others who were involved in education.

Q: Did you belong to any clubs in college?

A: No. In England, we do not have clubs like you have in Japan. We have sports teams such as rugby, football and hockey; these are very well supported. Actually, we had an Operatic Society which put on excellent performances once or twice a year.

Q: Why did you decide to come to Japan?

A: Since I was a child, I have read non-fiction books about travel and adventure so when I saw an advertisement about a job teaching in Japan, I thought it was a wonderful opportunity to travel and decided to apply. All my friends and family thought I was mad. But I am very happy here even though I never expected to get married and live here so long!

Q: What is your favorite place in the UK?

A: Actually, I really love London even though it is now a dirty and rather dangerous place. There is always something interesting going on. We can visit museums, go to the theatre and enjoy the many parks they have there. In summer, outdoor concerts are often held in the parks. I like to walk around Hampstead and visit Kenwood House or Kenwood Gardens.

Q: What are the biggest differences for you between the UK and Japan?

A: Well, there are so many big differences, it's hard to begin. The ones affecting my life most at present are still the weather and the food. Until I came to Japan, I had never experienced really humid summers nor had I eaten such 'strange' things as sea urchin, for example. My favorite meal is breakfast but not if it is Japanese-style!

Q: Do you have a message for the students?

A: The thing I remember most about student life is the people I met and friends I made. It is very important to maintain contact even after you graduate. Always keep in touch!

太平洋を越えた人と文化 ～ 第六回 ～

英語・英語圏文化専攻 教員
北脇 実千代



皆さんなじみの深いキティちゃん（ハローキティ：Hello Kitty）ですが、彼女が生まれたのは1974年11月1日。今年で30歳になります。プロフィールによると、本名はキティ・ホワイト。イギリスのロンドン生まれで、身長はリング5個分。体重はリング3個分だそうです。現在、30周年記念としてさまざまな企画が催されているようですが、このキティちゃんも誕生以来、大きく変化してきました。とくに1990年代以降は、いろいろな洋服を着るようになり、イメージチェンジをはかって多くのファンを獲得しています。これに合わせて、地方限定版のキティちゃんも土産物として登場し、バラエティに富んだキティちゃんを見ることができるようになりました。

「ロンドン生まれ」のキティちゃんを実際に生み出したサンリオは、創業者辻信太郎を社長とする日本の企業ですが、実は、キティちゃんの人気は、日本だけではなく、アメリカでもショッピング・モールに行くとき必ずといっていいほどサンリオ・ショップがあり、キティちゃんの商品を買い求めることができます。星条旗のデザインを模した洋服を身にまとったアメリカ限定版のキティちゃんさえも作り出されているほどです。アメリカでの人気に火がついた背景には、マライヤ・キャリーのような有名ミュージシャンやモデルが身につけていたということもあるでしょう。

サンリオが世界に目を向けたのは、今に始まったことではなく、1976年にはすでに、アメリカのカリフォルニア州サンノゼのショッピング・モールにお店を出しています。また、アメリカに直営店を出した後は、ドイツやスイスなどヨーロッパにも進出しました。1980年代後半にはラテンアメリカのブラジルにも店を設け、1990年代以降は台湾や香港、韓国などアジアにも目を向けてきています。近年、アニメを始めとして日本から世界へ発信されるものも多くなりましたが、同じように、キティちゃんも太平洋だけでなく、他の海も越えて世界で愛されているもののひとつといえるでしょう。

Cool Web Site!

英語・英語圏文化専攻 教員 前田 隆子

今回ご紹介するのは、英語の文法や単語、クロスワードパズルなど1000題以上の問題が用意されているHPです。文法や単語はレベル別に3段階に分かれています。あなたはどのレベルに挑戦しますか？

Activities for ESL Students

URL: <http://a4esl.org/>

Kaleidoscope 第15号はいかがでしたか？ 皆さまのご意見・ご希望・ご質問など、お気づきの点を maeda@caritas.ac.jp までお寄せください。

2004年10月20日発行

発行責任者：北川宣子

編集協力：東京工科大学大学院

メディア学研究所 渡邊賢悟

カリタス女子短期大学

Caritas Junior College

〒225-0011

横浜市青葉区あざみ野 2-29-1

Tel:045-901-5133

Fax:045-901-5066

URL: <http://www.caritas.ac.jp/english>